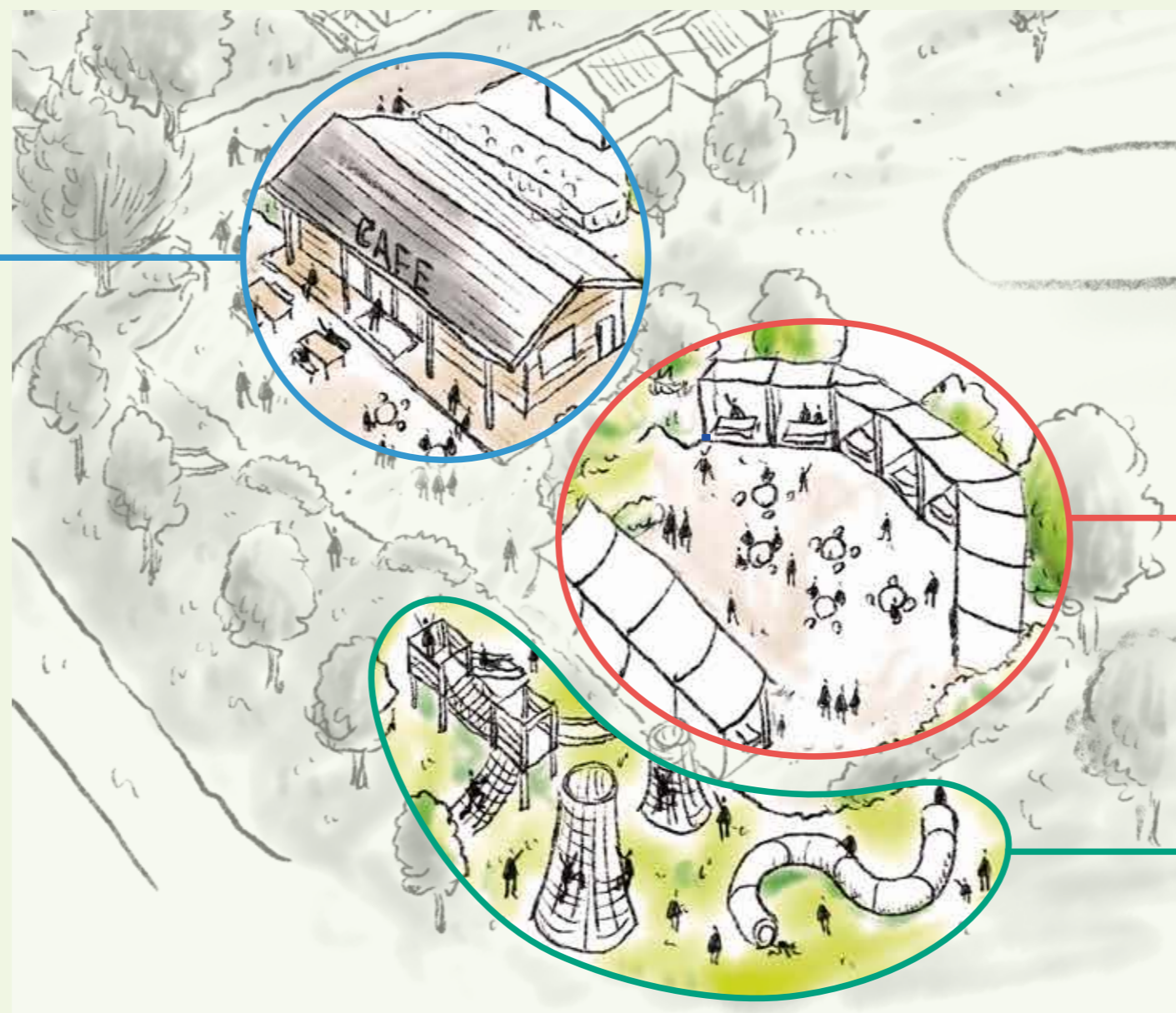


朝顔の松公園活用の可能性

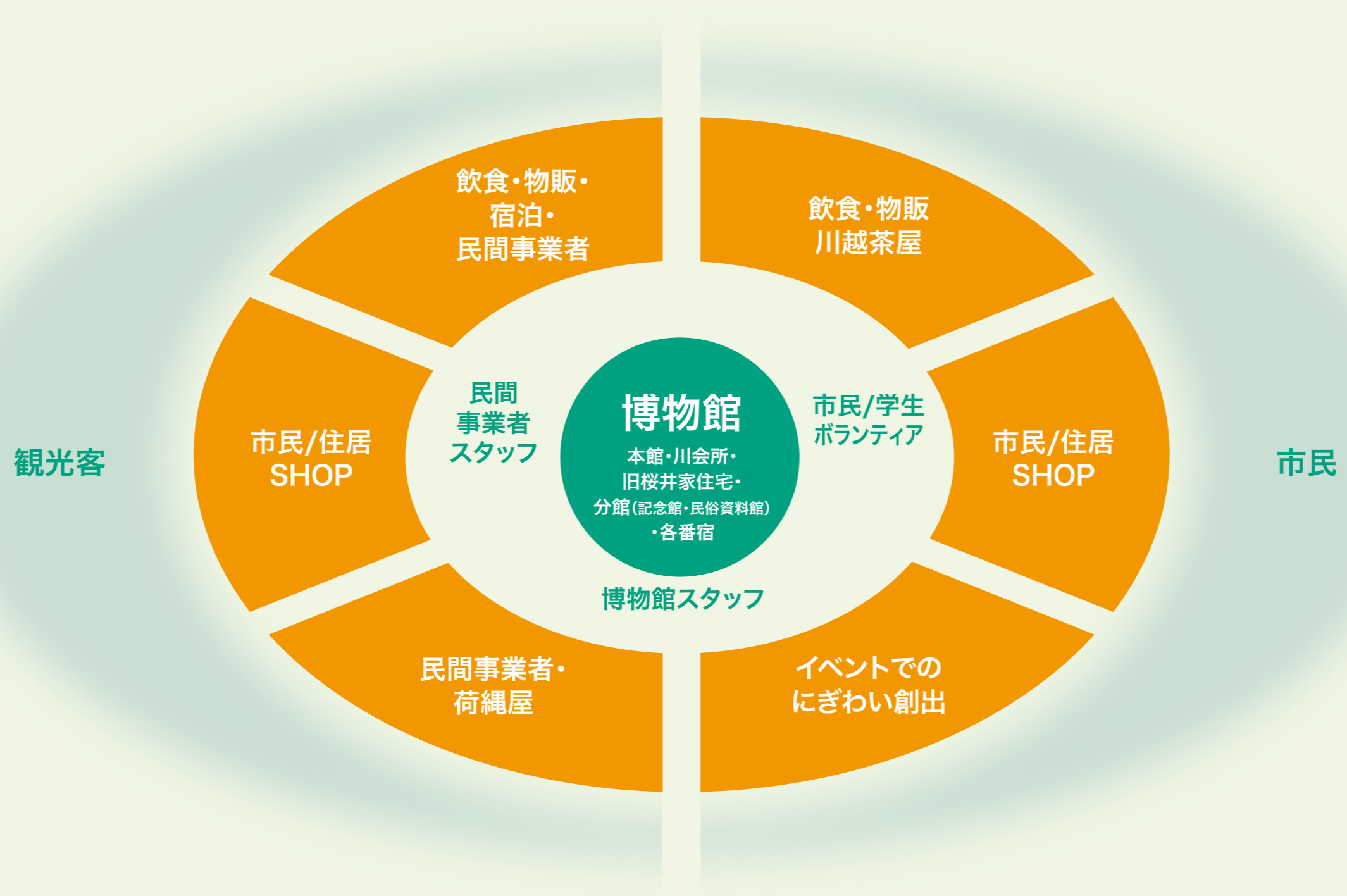
飲食施設
(テイクアウト)



朝顔市場や
各種市場

こども広場

市民/民間事業者/ボランティア組織参加を含めたスキーム



大井川流域を周遊する観光サイクルの創出

大井川流域両岸に2018年に897.4(やくなし)茶屋、
茶の都ミュージアムが開業。
KADODE OOIGAWAが2020年(令和2年)11月OPEN。



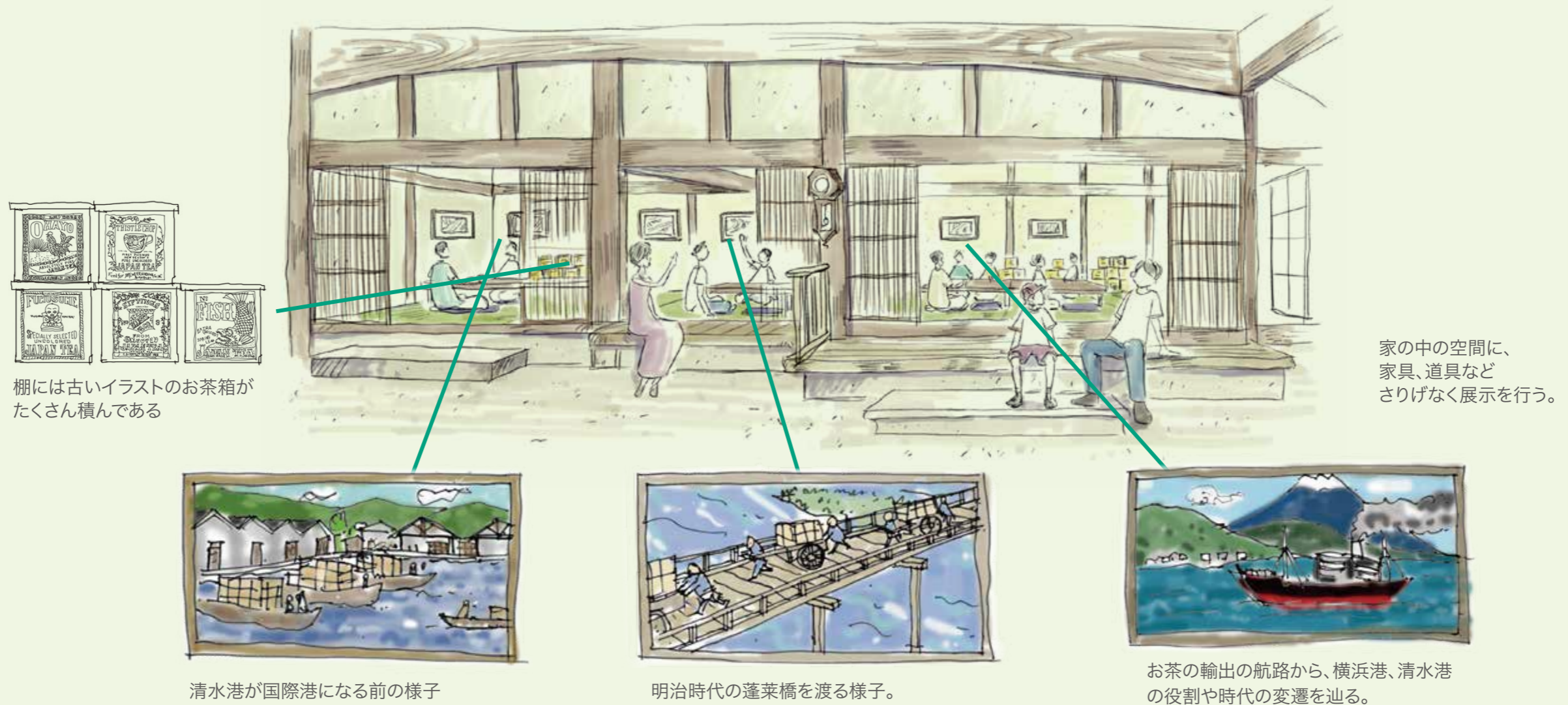
川越し街道の魅力的な整備を進め、保全・活用
することができれば、観光名所がまた一つ増え、
半径数キロ圏内で周遊できる流れが生まれる。



旧桜井家住宅(2)

川越人足のその後と、大井川流域で発展した茶の栽培の歴史に触れる展示

川越制度が廃止されたことで、川越しを支えた人足たちは仕事を失い窮地に陥る。そのような中でお茶に出会い、茶葉の栽培に適した土地にも恵まれていたことも手伝い、現代まで続くお茶の歴史が作られた。後に大井川流域を中心に製材・林業が発達したことから、お茶を出荷・輸出する茶箱の製造も行われた。当時最先端のデザインが色濃く反映されている。



棚には古いイラストのお茶箱がたくさん積んである

家の中の空間に、家具、道具などさりげなく展示を行う。

清水港が国際港になる前の様子

明治時代の蓬莱橋を渡る様子。

お茶の輸出の航路から、横浜港、清水港の役割や時代の変遷を辿る。

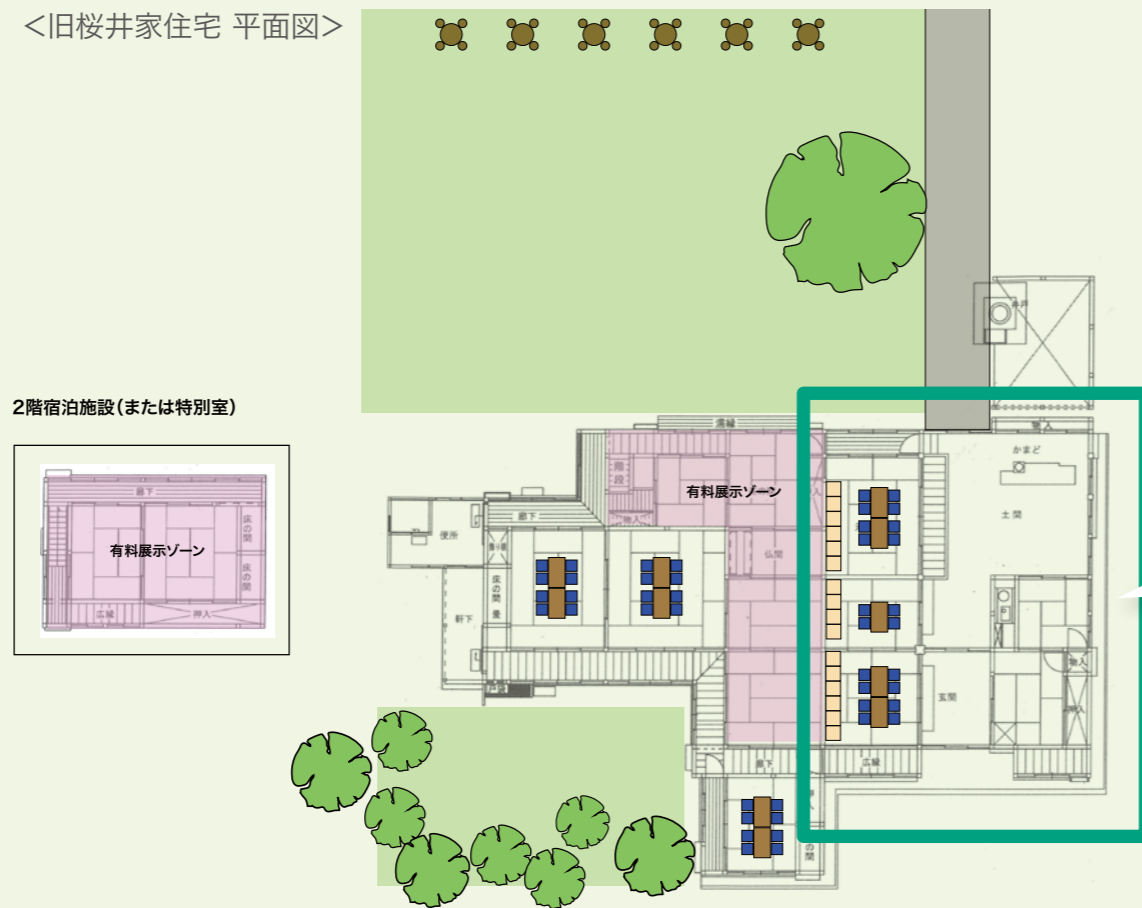
<今後のリニューアル展開案>

- ・著名な作家、漫画家による新しい茶箱のパッケージを集めた企画展の実施
- ・地元の木材を使用し、木工職人がハンドメイドで家具類を制作

旧桜井家住宅(1)

建物そのものをより多くの方に見てもらうために、
レストランや宿泊施設の機能を持たせる

<旧桜井家住宅 平面図>



提供するフードについて



観光客だけではなく、平日には地元に住むカップル、ママ友同士でわざわざランチをしたくなる場所にする。地場の新鮮な食材、美味しいものが訪れる人をお出迎え。KADODE OOIGAWA含む地元の食材連携を積極的に行う。

建物内部や縁側、中庭など魅力ある敷地を活用し、ランチだけではなくカフェメニューも取り扱い、お茶にまつわるメニュー（水出し緑茶、ほうじ茶ラテ、抹茶スイーツ、抹茶ソフトクリームなど）を充実させる。

お弁当も販売し、川会所のベンチや大井川の川べりで食べてもらえるようにする。

食べた食材がその場で買えるような小スペースの厳選野菜の物販があっても良い。

旧桜井家住宅



桜井家は江戸時代から代々この地に住む旧家で江戸時代は造り酒屋も営んでいた。現在ある旧桜井家住宅は、金融業を営む大地主であった桜井正蔵家の住宅で明治32年(1899年)の建築である。

玄関東側にはかつての女中部屋に使った座敷があり、その奥の土間にはカマドが残っている。通り庭を挟んで反対側は住居スペースで1階は11部屋、2階は2部屋ある。装飾などは少ないものの、豪壮なつくりで一部には数奇屋風の造りも見られる。また建物と街道の間には小川が流れる日本庭園もあり、生い茂る樹木は川越遺跡の景観木にもなっている。

平成8年に島田市が購入し、博物館分館の一部として公開されている。

※旧桜井家住宅は登録有形文化財に認定見込み